

令和 4 年 11 月 14 日

総務民生常任委員会

委員長 中平 裕二 様

総務民生常任委員 上田 啓二

総務民生常任委員会行政視察報告書

下記の日程で行政視察を実施しましたので、別紙のとおり報告します。

記

1. 視察期日及び視察先

令和 4 年 11 月 8 日（火）

岡山県勝田郡奈義町 「子育て支援施策について」

11 月 9 日（水）

岡山県総社市 「障がい者雇用施策について」

2. 視察参加名簿

委員長	中平 裕二
副委員長	上田 啓二
委員	林 哲也
委員	綾城 美佳
委員	江原 健二
委員	田中 千秋
委員	ひさなが信也

以上 7 名

3. 視察報告・所感 別紙

(別紙)

視察先	岡山県勝田郡奈義町			
視察日時	令和4年11月8日 13:30~15:30			
視察項目	子育て支援施策について			
対応部署名	情報企画課			
自治体概要	面 積	69.54km ²	人 口	5,738人 (令和4年8月末現在)
	世 帯 数	2,512世帯		
	■昭和30年 2月:3村合併により「奈義町」が誕生			
	■平成14年12月:合併の是非を問う住民投票を行い「単独町制」を決定			
	■平成24年 4月:子育て応援宣言			
	■特色 :自衛隊日本原駐屯地及び演習場(行政区の約2割)			
視察内容				
今回の視察目的は合計特殊出生率の 2.95 がどうして達成できたのかを現地で学ぶ事です。				
「全ての行政施策を人口維持に向けて」をスローガンに掲げて				
魅力を未来へ紡ぎ、暮らしやすく誰もが輝けるまち				
優しさと思いやりで将来にわたり永続できるまちづくりを目指す				
そのためには				
●子育て家庭の経済的・精神的負担軽減				
●快適な保育環境の整備や家庭内教育への支援				
●結婚や出産、子育てと働き方への支援				
●特色ある教育				
●全世代全員活躍のまち(CCRC)の推進				
●観光DMO法人による交流促進				
●働く場の確保と稼ぐ力の向上				
●安全安心な暮らしの確保				
●奈義町版SDGs~未来を創る人づくり~				
●協働、地域連携によるまちづくりの推進				
若者定住施策・就労対策・独自の子育て支援策				
を積極的に進めてきた結果であり				
この高い合計特殊出生率到達のキーポイントは「安心感」				
●住むところがあって安心				
(若者住宅、定住促進住宅、安価な分譲地など)				
●子育ての負担が軽くなって安心				
(出生から大学卒業まで切れ目のない経済的支援)				
●働くことができ安心				
(工業団地や起業支援、しごとコンビニ、シェアオフィスなど)				
●子育ての悩みや喜びが共有できて安心				
(チャイルドホームが核となり多様な地域の人が関わる仕組み)				
●町みんなが子育てを応援してくれて安心				
(一時預かり、自主保育、登下校の見守り、学校支援ボランティアなど)				
具体的な子育て支援施策として(令和4年度予算)				
1 高等学校等就学支援金交付事業(町単事業)		17,550千円		
2 不妊治療・不育治療助成事業(町単事業)		600千円		

3	妊婦・乳幼児健診事業	7, 6 5 2 千円
4	出産祝金交付事業（町単事業）一律一人10万円	5, 5 0 0 千円
5	乳幼児及び児童生徒医療費給付事業（町単事業）	3 2, 0 0 0 千円
6	ひとり親福祉年金交付事業（町単事業）	2, 3 0 0 千円
7	保育料多子軽減等事業（町単事業）	一千円
8	在宅育児支援金交付事業（町単事業）	1 3, 5 0 0 千円
9	奨学育英金（町単事業）	3, 6 0 0 千円
10	子育て家庭食育支援事業（コロナ対策）	1 3, 2 2 0 千円
11	子育て家庭学校教育等支援事業（コロナ対策）	7, 7 6 8 千円
12	軽度発達障害児相談支援事業（町単事業）	8 8 6 千円
13	おたふくかぜ・インフルエンザワクチン予防接種（町単事業）	2, 0 2 9 千円
14	病児・病後児保育事業	
15	なぎチャイルドホーム 集いの広場「ちゅくしんぼ」	
16	子育てサポート「スマイル」	
17	自主保育「たけの子」 年会費：100円	
18	奈義保育園（0歳児～3歳児）	
19	一時保育（1歳以上4歳未満）	
20	幼稚園育児支援 小学校なぎ放課後児童クラブ	

等々地域ぐるみで子育てを応援している姿が鮮明に確認できる。

この後、奈義町子育て等支援施設「なぎチャイルドホーム」を視察する。

【議会情報】

現在の議員数は条例定数である最下限の10名（女性議員1名）で、平均年齢が68.2歳と高齢化が進んでいる。しかしながら、これらの施策が市議会の一般質問から生まれたと聞き、頭が下がる思いでした。任期は令和5年2月までとのこと。

余談ですが

現在の議員報酬は月20万円とのこと。については若者が議員になりたがらない・・・。

所 感

今回の行政視察を通じて

何故、六千人弱の山間の小さな町が、合計特殊出生率2.95という飛びぬけた数値を達成できたのか・・・雰囲気を含め充分伝わってきました。

町全体で子供を思い、育てる若者をバックアップしていく施策が微に入り細に入り打ち出されている事に感銘致しました。奈義町に無くて長門市にあるのはデマンド交通と宿泊施設（ホテル）くらいかなあと思いました。小さな町にできて我が長門にできないことはなく、ひとつずつこれからを担う若者・幼児に視線を当てる必要性を更に感じさせてくれました。

(別紙)

視察先	岡山県総社市			
視察日時	令和4年11月9日 13:30～15:30			
視察項目	障がい者雇用施策について			
対応部署名	保健福祉部福祉課			
自治体概要	面 積	211.9km ²	人 口	69,696人 (令和4年9月末現在)
	世帯数	29,250世帯		
	■平成23年 4月:「障がい者千人雇用」を開始 ■平成23年12月:「障がい者千人雇用推進条例」を制定 ■平成24年 4月:「障がい者千人雇用センター」を設置 ■平成26年 6月:「就労移行支援金制度」の創設 ■平成29年 5月:「障がい者千人雇用」による就労者千人達成 ■平成29年 9月:「障がい者千五百人雇用」事業を再スタート			
	視察内容			
今回の視察は、どのようにして障がい者千人雇用を達成できたのかを現地にて学ぶ事を目的とする。現在は障がい者千五百人雇用事業となっている。 【目的】 障がい者が就労を通して、生きがいを感じながら安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄与することを目的とする。 そのための具体的方策として“三本の矢”で支援する。 ●障がい者千五百人雇用センター（4名）「障害者就業・生活支援センター」（中ボツ）同等 センター長、雇用ワーカー、臨時職員 ここの職員は、登録者に対してマッチングから生活までマンツーマンでサポートを行うとともに、企業など就労先へのアフターケアも担当する。 ●ハローワーク総社（6名） 就労支援ナビゲーター、相談員、統括官 ●総社市役所（6名） 部長、課長、課長補佐、主査、主任、自立支援推進員 他の課の政策を障がい者雇用に活用して、相乗効果を発揮させる。 例として 1 農業・福祉の連携 ⇒ そうじゃ地・食べ公社 2 乗合タクシー「雪舟くん」の活用（市内であれば、片道200円で通勤可能）など 総社市が行う取組 ●障がい者向けの就職面接会の実施 市の主催で、ハローワーク総社等と共催して面接会を実施。 ●広報活動により障がい者雇用をアピール 市の広報誌「広報そうじゃ」において障がい者関連の記事をアピール。 ●障がい者と触れ合える地域を 市役所の中庭を有効活用して、ランチスペースを提供。 ●一般就労への移行を図る取組 福祉的就労から一般就労へ移行して6ヶ月経過者に10万円の就労支援金を支給。 ●コンビニエンスストアの活用 工賃アップのためのアイデアを模索中。				

【成果】

- 「市県民税納付者」数
平成24年度235人 ⇒ 29年度247人
- 障がい者の給与収入総額
平成24年度10億9,700万円 ⇒ 29年度12億4,900万円

【課題】

- 障がい者の平均給与収入
平成24年度2,750,144円 ⇒ 29年度1,983,079円
(これは少額収入の障がい者が増加したためと考えられる)
このように、納税者の増加や社会参加は増加したものの、工賃等収入の向上が・・・

【展望】

- 総社市外の圏域への波及（現状は総社市民が7割）
- 生活の質の向上
- 課題やニーズに対して適切な支援

今後の千五百人雇用が目指すものは ⇒ ライフステージの一貫した支援の構築

《乳幼児・就学期》（0～18歳）

就学前・就学时における移行及び相談支援

《青年壮年期（就労期）》（18～65歳）

「千五百人雇用」の実現及び施策のステップアップ

《高齢期》（65歳～）

安心した老後のための居住生活

上記を通じ、障がい者一人ひとりが自立し、安心して地域で暮らせる社会の実現であり、ひいては「全国屈指の福祉先駆都市」の実現の礎ともなる。

途中で片岡聡一市長との面談（30分強）というサプライズも実現する。

【議会情報】

現在の定数は22名（女性2名）で、平均年齢は57.8歳となっている。議員報酬は40万円とのこと。当初議会側も疑心暗鬼になっていたようだが、今では前向きに取り組んでいる。

平成30年2月、総社市議会も土山希美枝先生を講師に招き議会フォーラムを実施済み。演題：「市民の政策議会」は可能か～議論するヒロバをめざして

所 感

今回の行政視察を通じて

まずは熱血漢あふれる片岡市長の意気込みの凄さを肌見で感じ取りました。縦割りでガチガチな厚労省と渡り合い、ハローワークと市の行政を一体化されたことから、この事業がスタートすることが出来たと思う。

取り仕切る行政側も大変であろうが、受け入れ側も更に大変であろうと推察致します。それに加えて、全国屈指の福祉先駆都市を目指す総社市の保健福祉政策は幅広く、保健福祉部は福祉課・こども課・健康医療課・長寿介護課

で構成され、下部組織にも他市を凌駕する事業やサービスが目白押しの環境を整えている。我が長門も、もっともっと社会福祉協議会との連携を柱に事業展開を図っていく必要性を痛感しました。